

# 10月8日は 国際お月見ナイト InOMN

## (International Observe the Moon Night)

InOMNは、ガリレオが月のクレータや木星の衛星などを、望遠鏡で観察し記録・考察してから400年めの2009年に行われた「国際天文年」を契機に、NASAなどが呼びかけて開催され、今年で2回目です。この様子は、東亜天文学会 (<http://zetta.jpn.ph/OAA/msgbd01.asp>) へ報告します。

東亜天文学会 月面課 長谷部 孝男

最初は眼で見て。

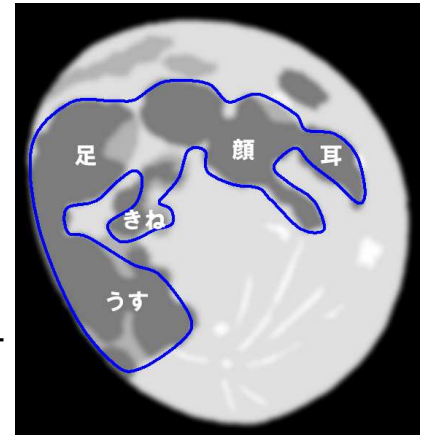
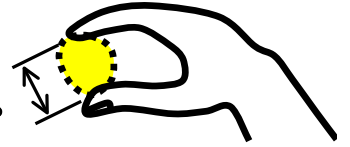
- ① 大きさはどのくらい？ 自分で調べてみよう  
腕をいっぱい伸ばして、指で測って見たら、何センチ？

何センチ？という言い方は正しくありません。天体の見かけの大きさは、例えば「月の視直径は0.5度」というように角度で表します。(実際の直径は3476km)

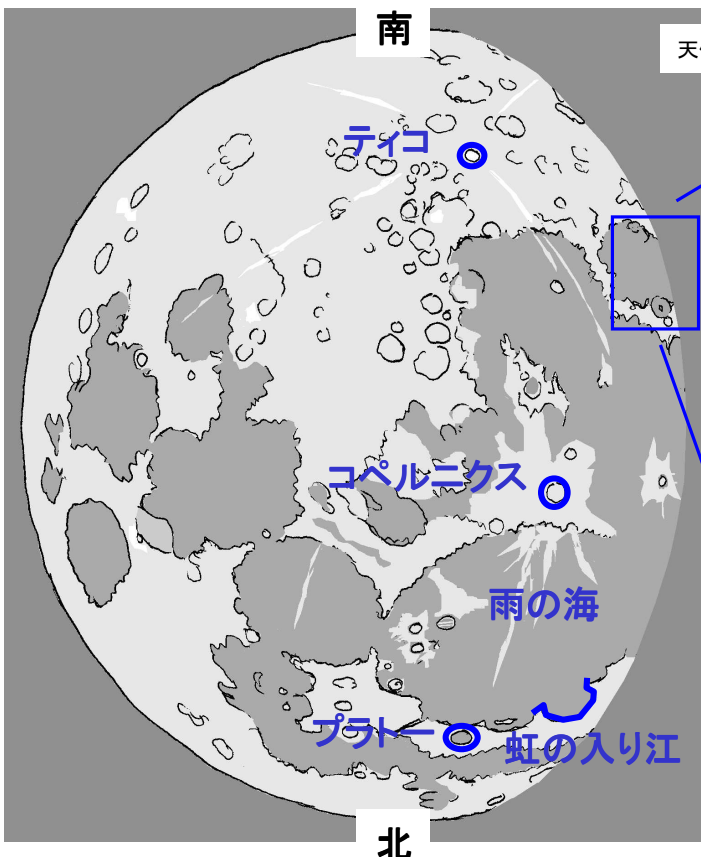
- ② 月の模様を見よう。  
双眼鏡を使うと とても  
良くわかります。

日本では、「うさぎのもちつき」(右図)に見られます。外国では、蟹・ろば・わになどの動物や、女性の横顔、ロッキングチェアで本を読むおばさんなど、いろいろです。

- a. 5cm  
b. 1cm  
c. 0.5cm?



望遠鏡を覗いて ~ 月面地形の名前をいくつか覚えよう



天体望遠鏡で見ると、上下がさかさま。  
月面図は南を上を描いてあります。

この付近の  
拡大写真



大きさや形がまちまちのクレータや、ヒビ割れもある

うさぎ模様の薄暗い所は、平らで低く「海」と呼ばれています。丸い形が多く、実は大きなクレータの底に溶岩が流れ、埋まったものです。海には「静かの海」、「晴の海」のように名前がつけられています。

右下に見えるの大きな海は「雨の海」と呼ばれ、欠け際の湾には「虹の入り江」という名前がついています。

クレータには主に科学者の名前がつけられ、雨の海のすぐ南の目立つクレータは「コペルニクス」。

コペルニクスや南の方にある「ティコ」の周囲には、明るい「光条」が見えます。これは隕石が衝突してクレータが出来た時に周囲にまき散らされたものです。

雨の海の北側にある「プラトー」は内部が黒く平底で、他とは違う形をしています。よく見ると半分埋もれてしまったり、ひび割れで壊れかけたクレータもあります。

①の答え c. 0.5cm (意外に小さい)